

芸能人のがん闘病報道

Dr.

和

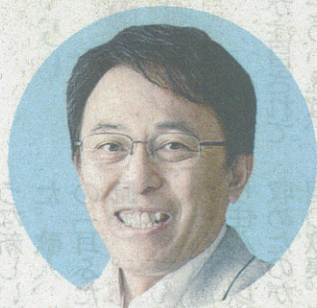


「生と死」シリーズ⑮

芸能ニュースなどには興味がない、という人もいます。

私が思うに、時期がありました。しかし、最近では芸能人の闘病記を熱心に眺めています。

医師には「守秘義務」があるので患者さんの実話はなかなか紹介できません。しかし、芸能人はある面ではプライベートを売って職業ですから、闘病記においても遠慮なくこうして書けるのです。最近、がんの闘病で話題になった芸能人について書いてみます。



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。近著「平穩死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学、東京医科大学客員教授。56歳。

愛川欽也さんの最期に学ぶ

組まれているようで、近い将来、地声で話してくれることでしょうか。一般的な話ですが、喉頭がんは9割以上がたばこが原因です。禁煙で迷っている方はこの機会に禁煙治療について真剣に考えてください。

俳優の愛川欽也さんは、日本人のがんで一番多い肺がんのため、80歳で奥さまに見守られながら旅立たれました。芸能人には珍しく在宅医療を受けてご自宅で亡くなられたのです。肺がんと聞くと「在宅では苦しいのではないかと」というイメージがあるかもしませんが、決してそうではありません。緩和医療と

「平穩死」を知ってさえいれば末期の肺がんでも酸素吸入器なしで最期まで自宅で普通に楽しく生活することが可能です。これまで私はテレビでもその発信してきました。肺がんの専門医でも知らない人が多いため、昨春秋には京都で開催された日本肺癌学会で「肺がんは最も在宅医療に向いているがんのひとつである」という講演をさせていただきました。

大腸がん 男性では3番目、女性では2番目に多いがん。早期に発見できればほぼ100%助かるが、早期の段階では無症状のことが多い。早期発見のためには便潜血反応(2日法)が有用で、1回でも陽性なら大腸内視鏡検査を行う。

肺がんの患者さんには常時、在宅療養されている人がいます。愛川欽也さんは「芸能人だから在宅死がなかった」という珍しい例ではなく、在宅医療にも従事する町医者にとっては日常であることを知っておいてください。たとえば、流通ジャーナリストの金子哲雄さんも肺の悪性腫瘍のため自宅で平穩死されました。

さて、先週テレビで俳優の今井雅之さんがステージⅣの大腸がんで闘病中であることを語っていました。かなり痩せておられたので驚きまして、俳優にとって舞台を降板することがどれだけつらいことであるかが、ひしひしと伝わり胸が痛みました。「しっかりと抗がん剤で治します」と言い残されましたが、どんなゴールデンウィークを過ごしておられたのか。

「平穩死」を知ってさえいれば末期の肺がんでも酸素吸入器なしで最期まで自宅で普通に楽しく生活することが可能です。これまで私はテレビでもその発信してきました。肺がんの専門医でも知らない人が多いため、昨春秋には京都で開催された日本肺癌学会で「肺がんは最も在宅医療に向いているがんのひとつである」という講演をさせていただきました。大腸がんは3番目に多いがん。早期に発見できればほぼ100%助かるが、早期の段階では無症状のことが多い。早期発見のためには便潜血反応(2日法)が有用で、1回でも陽性なら大腸内視鏡検査を行う。

らちんぼ